

刊行のことば

世界は一刻も休んでいない。しかも、今日は、交通通信の発達により、国境を越えた人、物、金、情報等の流通がますます活発になりつつある。いわゆるグローバリゼーションの流れの中で、世界各国の社会経済は、過去には見られなかったような速さで変化しつつある。農業といえども、その例外ではあり得ない。

日本の農業も、独自の条件をもっているとはいえ、世界の農業とのつながりは、ますます大きくなっている。世界とともに考え、世界とともに伸びるのが、日本農業の今日の使命である。この叢書の目的とするところは、まさにこの使命を忠実に実行するところにある。

編集委員

安藤光義	鈴木宣弘
大山利男	立川雅司
加瀬良明	三石誠司
河原昌一郎	(五十音順)

中国からの食品輸入と食の安全

解題/翻訳 三石 誠司

解題	1
中国からの食品輸入と食の安全	5
イントロダクション	5
安全性に対する潜在的な危険	6
どのような食品が中国から輸入されているのか?	12
食品医薬庁 (FDA) による中国からの輸入拒絶	19
中国産食品の安全性向上のための取り組み	32
結論とディスカッション	41
コラム 1. 中国からの食品輸入はアメリカの食品供給の中でも低い割合	52
コラム 2. 食品医薬庁 (FDA) の輸入拒絶データ	54
コラム 3. 輸入警告によりエビ (シュリンプ) の輸入は激減	56
コラム 4. 中国の魚類輸出業者のプロフィール	59

解 題

三石 誠司
(宮城大学 教授)

本稿は、2009年7月に公表されたアメリカ農務省経済調査局(USDA-ERS)のフレッド・ゲール(Fred Gale)およびジーン・C・バズビー(Jean C. Buzby)による報告書、「Imports From China and Food Safety Issues」の全訳である。原文のタイトルには「輸入食品」という言葉は無いが、内容を考慮し、あえて「中国からの輸入食品と食の安全」とした。

現在の中国は世界経済のあらゆる場面において極めて強い影響力を持っているが、食品における影響力もそのひとつである。誤解を恐れずに言えば、一般的に我々日本人は多くの輸入食品を中国に負っているが、本当に問題が深刻にならない限りどうも現実を正面から見ようとはしない傾向が強いのかも知れない。そして、一度問題が起こると極端なほど否定的な態度を取る。さらに、時間が経てば、良い意味でも悪い意味でも過去を「水に流して」しまいがちである。こうした姿勢に対し、あくまでもアメリカの視点で書かれた本報告書は、いくつかの非常に有益な示唆を与えてくれている。

全文は、6部に分かれており、イントロダクション、安全性に対する潜在的な危険、どのような食品が中国から輸入されているのか、食品医薬庁による輸入拒絶、安全性向上のための取り組み、そして結論となっている。詳細は以下の訳文を見て頂くとして、ここでは全体を通して流れている基本的な視点と姿勢を踏まえ、訳者としての若干の見解を記しておきたい。

第一に、好き嫌いや良し悪しに拘わらず、中国からの輸入食品の安全性や品質向上について、我々日本人はアメリカ以上に正面から取り組まなければならないという点である。アメリカの食料供給における中国が

らの輸入食品のウエイトは、本文でも述べられているように、極めて少ない(0.4%、2008年、価額ベース)。そのアメリカですら、中国からの輸入食品の品質と安全性の向上について、民間ベースだけでなく政府レベルでも組織的な協力体制を取っている。その内容や具体的な手法、そしてデータの分析、人材の活用方法等々については、わが国としても十分に参考にすべき内容であると思う。そもそも、いったい何がどの位、中国から輸入されていて、潜在的にリスクのある輸入食品は何か、実はこうした基礎的な事実認識を共有して初めて、具体的な対応策が構築される。いたずらに「中国産は云々・・・」ということでは何ら問題解決にはつながらないことが、本報告書では通関データの分析をもとに詳細に示されている点は、我々も十分に参考にしたい。

第二に、現在の中国産輸入食品が抱えている品質や安全性の問題は、急速な経済成長の持つネガティブな面であることは事実であるとしても、既に現実是我々の予想をはるかに上回るペースで進展しており、それに前向きに対応していくことこそが求められているという点である。アメリカにとって、中国は既に2008年時点で海外の食品調達先としては第3位、52億ドル規模の相手先になっている。そしてその4割強が世界中で「健康に良い」とされている魚類やシーフードであることや、既にアメリカ国内のリンゴ・ジュースの6割、ニンニクの5割が中国産であることなど、新しい知見も多く紹介されている。

第三に、漢字という文字を共有する我々日本人は、中国の食品企業について、場合によってはアメリカ以上に深く情報を得る機会と能力がある以上、その立場を最大限活用すべきであると思われる。報告書の本文およびコラムにおいて、中国の輸出企業の内容が記されているが、依然として英語により提供されている情報量は、漢字表記のものよりはるかに少ない。食の安全を確保するためには、国際標準となっている手法の導入と、科学的な検査だけでなく、中国語、英語、日本語によるダブル、トリプルチェックも有効である。中国語には不案内である訳者である

が、アルファベット表記の中国語だけでなく、本文中の中国企業等の名称は全て原語での表記をウェブサイト等で確認していった。その結果わかったことは、本報告書の内容以上に漢字のウェブサイトが日本人にとって活用可能であるという点である。名称や所在地、企業グループの構成が頻繁に変わる中国企業を相手にする以上、我々もあらゆる知恵と工夫で対応しなければならないと思う。これもまた食のグローバル化が与えた試練であるが、考え方を換えれば、これは日本人が欧米人に対して優位に立てる、あるいは十分に協力できる点でもあることを指摘しておきたい。

最後に、この報告書の全文はアメリカ農務省経済調査局のウェブサイト入手可能である(アドレス: <http://www.ers.usda.gov/Publications/EIB52/EIB52.pdf>)。翻訳においては可能な限り原文に忠実になるように努めたが、部分的にはかなりの程度の意識を施した個所もある。翻訳における間違いはすべて訳者の責任である。必要な場合には、是非原文に当たり、訳者の記したニュアンスを取って頂ければと思う。また、本報告書の内容を考慮し、早い段階での翻訳を試みたが、最終的な翻訳が遅れたのはすべて訳者の事情と能力によるものである。この場を借りて深くお詫び申し上げたい。

* * *

なお、翻訳の最終仕上げをしている最中に東北関東大震災が発生した。訳者にとっては、2005年の米国におけるハリケーン・カトリナ以来の災害であるが、居住地である仙台において、家族や同僚、学生達とともにこれを乗り越えていきたいと思っている。今回の震災とそれに引き続いて現在進行中の原子力発電所の問題は、わが国の農業と食料にとっても、食の安全性やフードシステムの確保という点で、今や避けて通れな

い目の前の重大問題となっている。そうした中、本日（2011年3月16日）早朝、尊敬すべき職場の前学部長である樋口貞三名誉教授から「国難を火事場の馬鹿力ならぬ、日本の馬鹿力で凌ぎましょう」との激励のメールを頂戴した。ここであえて樋口先生をつぶやきを記しておきたい。

中国からの食品輸入と食の安全

Imports From China and Food Safety Issues

Fred Gale and Jean C. Buzby

三石 誠司 訳

イントロダクション

安全性に対する潜在的な危険

どのような食品が中国から輸入されているのか？

食品医薬庁（FDA）による中国からの輸入拒絶

中国産食品の安全性向上のための取り組み

結論とディスカッション

参考文献

イントロダクション

輸入食品の消費の増加は、食品の安全に関連するアメリカ政府の当局者に対して数々の課題を提起している（Becker, 2008b；Buzby, 2003；Buzby et al., 2008）。世界中から食品とその原材料を調達することを望むアメリカの消費者により、小売業者と加工業者は、低価格の供給業者（サプライヤー）と、異国情緒（exotic）があり民族的（ethnic）な食品を求めている。しかしながら、遠隔地の供給業者にとって、アメリカの消費者により求められている高い安全基準と厳格な品質管理に従った形でのオペレーションを保証することはしばしば困難を伴っている。

中国から輸入された食品の汚染と劣化に関する最近の出来事は、この問題の顕著な現れである。汚染された牛乳・ペットフード・魚・小エビ（シュリンプ）、そして、アメリカ食品医薬庁（FDA）が中国産食品の船積み拒絶した旨をニュース・メディアが報道したことにより、中国からの輸入食品の安全性に対する世論の関心が極めて高まっている。こうした事態を受けて、アメリカと中国の両政府当局者により食品の安全性に関する意見交換が行われた。2007年には、アメリカ政府機関における食の安全に関する合同ワーキング・グループが「輸入安全性のためのアクション・プラン（Action Plan for Import Safety）」を、そして食品医薬庁は「食品保護プラン（Food Protection Plan）」¹を公表している。さらに、2008年、食品医薬庁は初の海外事務所を中国に開設している。

この報告書は、アメリカが中国から輸入している食品は何かという事実に関する情報、それらの輸入に関連した安全面におけるリスク、そして中国における食品の安全性に関する規制とその執行の展開状況についてまとめたものである。報告書は、食品のサプライ・チェーンのどこにリスクが生じているのかについての全体的評価を提供している。この報告書の分析は、中国からアメリカに向けた食品船積みにおける食品医薬庁の輸入拒絶に関する通関統計および関連データに基づいている。

安全性に対する潜在的な危険

公式の情報によれば、2008年、蛋白質含有量を外見上増加させるために生乳に添加された工業用化学薬品のメラミンで汚染された乳児用調合乳により、6人の中国人乳児が死亡し、300,000人近くの子供が腎臓障害

¹ <http://www.importsafety.gov/> および
<http://www.fda.gov/oc/initiatives/advance/food/plan.html> を参照。